

施策 No.	政策名	活力ある産業のまちづくり	主管課	商工観光課	主管課長名	増淵 孝明
4-3	施策名	観光の振興	関係課	農林課、生涯学習課、都市整備課、企画課、ヤマザクラ課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
		桜川市に訪れる観光客	①1都、6県の人口	千人	見込値	43,285	43,385	43,485	43,585
実績値	43,285				43,385	43,464	43,513		
					見込値				
実績値									
目的	施策の意図	成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
	交流人口増によりにぎわいが生まれ、経済が活性化している。	①観光客入り込み客数	人		目標値	350,000	360,000	370,000	385,000
実績値					304,000	336,254	352,380	101,121	
②イベント来場者数		人		目標値	50,000	55,000	60,000	65,000	70,000
				実績値	45,000	50,000	55,000	200	
③お土産品開発数		件		目標値	2	2	2	2	2
				実績値	2	5	2	1	
④観光協会会員数		人		目標値	160	170	180	190	200
				実績値	154	183	186	187	
				目標値					
				実績値					
成果指標設定の考え方	①観光客の動向 ②交流人口による地域のにぎわい ③経済への貢献度 ④観光に関心を持つ人材の発掘・育成								
成果指標の把握方法と算定式等	①茨城県観光客動態調査による数値(真壁のひなまつり、桜祭り、真壁祇園祭、みかん狩りを含む)とキャンプ場2カ所の利用者数 ②SAKURAフェスティバル、納涼大会、地域・市民主体によるイベント等の来場者数(岩瀬駅前夏祭り、かつたて祭り、十三夜祭、まかべ日和、秋さんぼ等) ③経済活動を意識した観光客向けお土産品の開発件数 ④観光協会の会員数								

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)			
実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	①観光客入り込み客数は、前年度352,830人に対し令和2年度は101,121人で251,259人下回った。 ②イベント来場者は、前年度55,000人に対し令和2年度は200人で54,800人下回った。 ③お土産品開発件数は、前年度2件に対し令和2年度は1件で1件下回った。 ④観光協会会員数は、前年度186人に対し令和2年度は187人で1人上回った。 ①～③については、新型コロナウイルス感染症の影響で、イベント等が中止になったことが大きな要因となっている。		
2) 成果目標の達成状況			
実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った	
背景・要因	①観光客入り込み客数は目標値385,000人に対し実績値101,121人と目標値を下回った。 ②イベント来場者は目標値65,000人に対し実績値200人と目標値を下回った。 ③お土産品開発件数は目標値2件に対し実績値1件であり、目標値を下回った。 ④観光協会会員数は目標値190人に対し実績値187人であり、目標値を下回った。 ①～③については、新型コロナウイルス感染症の影響で、イベント等が中止になったことが大きな要因となっている。		

3. 施策の成果実績に対するの総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対するの総括	今後の課題・方針
令和2年度に貢献した事業は「りんりんロード利活用促進事業」「観光パンフレット作成配布事業」「プロモーション事業」であった。 「りんりんロード利活用促進事業」は霞ヶ浦りんりんロード利活用推進協議会のレンタサイクル事業として、サイクリングブームに繋がる多くのイベントを実施。さらに、地元の高校生によるデザインを取り入れた、石のサイクルラックを作成し、岩瀬休憩所・真壁休憩所にそれぞれ設置したことで、利用者の利便性と市のPRにも繋がった。 「観光パンフレット作成配布事業」は、桜川の四季と題して、二人の登場人物の成長と、春夏秋冬12箇所の場所の魅力あるデザインをあわせ作成。多くの店舗へ配布したことで、より桜川市の魅力向上に繋がった。 「プロモーション事業」は、観光庁がすすめる誘客事業を活用し、市内のモデルルート映像の作成をおこなった。映像を発信することで、市内の観光スポットが多くの人に目につけ、桜川市への魅力向上へ繋がった。	つくば霞ヶ浦りんりんロードの知名度は高く利用者も多いが、桜川市内においての観光スポットとしての魅力ある場所がない。そのため、土浦から筑波山付近しか利用しないといった意見も耳にする。今後は、こうした課題をなくすために関係機関と連携し、利用者が訪れてみたいと思えるスポットの発掘が必要となる。そのためにも、SNSを利用し、より多くのスポットやグルメの情報発信をしていく。また、桜川の四季ポスターを市外へ発信配布することで、より多くの方に桜川市の魅力・知名度アップへ繋げる。 新型コロナウイルスの影響によるイベント開催についても、今後、どのように対処すべきか考える必要がある。